

平成21年度 第2回高梁市地域公共交通会議議事録（要約）

日時：平成21年10月29日（木）14:00～16:00

場所：高梁市役所別館3階第1会議室

1. 開会

事務局：開会のあいさつ

2. 委員委嘱状交付

新委員：岡山大学大学院環境学研究科准教授 橋本成仁

3. 会長あいさつ（安田会長）

会議の経緯、目的

4. 議事

（1）経過報告（事務局）

別紙「前回会議以降のこれまでの経過について」参照

- ・8月に法定協議会へ移行し、今年度連携計画を策定していくこととなった。

（2）予算案説明（事務局）

別紙「平成21年度高梁市地域公共交通会議歳入歳出予算書（案）」参照

（承認を得る）

（3）高梁市地域公共交通総合連携計画作成業務（案）説明（バイタルリード）

別紙「高梁市地域公共交通総合連携計画作成業務委託事業計画書」参照

（承認を得る）

<質疑応答>

- 委員：今年度、調査と計画を策定し、来年度以降の動きはどうなるのか。
- 事務局：これから調査に入り、12月の会議で現状調査報告を行いみなさんに審議していただき、現状調査結果及び審議事項を踏まえて計画案を作成する。3月の会議で計画案を審議していただき、計画をまとめる。来年度以降、計画に基づき試験運行等も考えている。
- 委員：計画で例えば、市街地活性化のために市役所を移転し、市街地を公共交通のみとし、マイカー一進入禁止といった計画が出た場合、それには大きな市の財政負担が必要となる。また、バス運行も市の補助が必要であり、費用対効果も含めてどのように考えているのか。

- 事務局：これから行う調査の分析結果を踏まえ、市の財政負担の問題や費用対効果を含めて今後の公共交通のあり方について皆さんにこれから審議してもらい計画を作成し、計画でとりまとめた事業を来年度以降実施する。実施に当たっては、市の財政問題もあるが、将来を見据えて取り組んで行きたい。また、3年を限度に国の補助もある。
- 委員：調査計画に観光客アンケートがあるが、さんぎょうしんこう商工観光課が500人の観光アンケート調査をしている。それを使ったほうがよいと思う。
- 事務局：そのことについては了解しており、調査会社に資料を提供する予定である。
- 委員：以前バスを利用した際に発車が遅れて、JRに乗り遅れそうになった。どんな計画をしても実行が伴わないと意味がない。
- 委員：費用対効果を明確にして、路線を縮小するのか、必要なものとして存続させるのか、市としてどう考えるのか。バスの存在価値を低めてもらいたくない。バスをいったん廃止して再開することは難しい。
- 事務局：バスの廃止等は考えていないし、バスを否定もしていない。合併したこともあり、市全体のことを考えて見直しを進める。また、県の補助の打ち切り等もあり、今後の市の負担も見据えて考えたいと思う。
- 委員：この地域の移動をどう考えるのか。そこに住む人が変わっていく中で昔ながらのバス運行を行っているのが現状であり、今きちんとデータをとって考えてみる必要がある。津山市でも9割はバスを利用していないが、将来どうするかを心配するのではなく、これからどのように良くしていくかを考える必要がある。
- 委員：公共交通で他の地域との公平性を保つ要望が強い。平川地域は特に交通不便な地域にあり、この10月から平川地区で試験運行を行うと聞いているが、この会議との関連性はないのか。
- 事務局：本事業との関連性はない。それは集落活性化事業であると思う。交通整備も計画にあると聞いている。
- 会長：この会議は市全体を考えるものであり、平川地区の活性化計画とは直接関係ないが、意見として本計画に取り入れていきたいと思う。
- 委員：先ほどアンケートの説明があつたが中心部だけでなく、周辺部に配慮したものにしてほしい。
- 事務局：調査は、住民の意見が中心部に集中しないように、アンケートの実施に当たっては、高梁800、各町300×4の計2,000世帯を抽出して行う予定である。また、バスを利用される方が中心になるようにしている。アンケート調査票を資料として付けているのでご覧いただき、問題点等あればご連絡をお願いします。
- 【別紙「アンケート調査票（住民、高校生、観光客）」参照】
- 委員：免許を持たない人を強調しすぎると、免許保有者の回答が得られないので、表現方法を工夫する必要がある。
- 委員：せっかく車は走っているのに乗れない状況がある。地域住民限定のバスやスクールバスなど、規制を無くしてだれでも乗れる物にしていかないと維持が難しいと思う。

- 委員：スクールバスなど一般の人を乗せると補助が受けられないという現実がある。そのあたりは国の制度の変更が必要である。
- 委員：アンケートの回収が地域によって想定以上に低かった場合は、再調査するのか。また、大学の協力は、この時期得にくいと思うが、どのように考えているのか。
- 事務局：住民アンケートにおいて、回答が少ない地域があった場合、類似地域の個別データや地域ヒアリングデータを加味して分析できると考えている。大学については、アンケートは必ず実施したいと考えている。また、ワークショップも1回は実施したいので、市に協力をお願いしたい。
- 会長：ご審議いただいた調査内容で今後の調査を進め、12月の会議で結果を報告し、ご検討いただくということでしょうか。  
(全員了解)

#### (4) その他

福地地区乗合タクシーの実証運行状況報告（事務局）

【別紙「福地地区乗合タクシー利用状況」参照】

#### <質疑応答>

- 委員：内容を理解していない住民が多いように思う。もっとPRが必要である。利用目的の分析も必要と思う。
- 事務局：PRは地元の人と協議して周知に努める。乗降場所を把握しているので、利用目的等の分析資料も加え、利用促進策を検討していただく。
- 委員：利用促進を図るためにバス停位置をちょっと変更したいと思うこともよくあるが、なかなか許可が下りない。運輸局のほうでもできるだけ早く許可が下りるように対応をお願いしたい。
- 専門員（運輸支局）：バス停位置の移転等は運輸局だけで決めるものではなく、交通安全上、管理上の問題点など他の関係機関に照会して進めているので、時間がかかってしまうことをご理解いただきたい。その上で、短縮できるところは、短縮するよう努める。
- 委員：このバスは福地地区の人が利用するバスと思うが、なぜかバス停が「日名口」にある。利用する人があるのか。
- 委員：どのでも乗り降りできるわけではなく、また、許認可の関係もあるので、利用に関係なく、バス停はできるだけ多く設置したほうがよい。また、福地地区住民だけでなく基本的にだれでも利用できるが、予約が必要である。
- 委員：「日名口」で降りる人がいる。他のバスへの乗り換えのようである。

#### 5. 閉会あいさつ（副会長）

調査から地域の課題がわかるようなデータを期待する。新しい課題に対する意見を出していただき、高梁市の公共交通が、実態に応じた良い方向に進んで行くことを望む。